

## 2021年度に運用する 遠隔授業ツールの紹介

2021年度も間近となり、本学の各学部・学科では、新年度も遠隔授業ツールを積極的に活用してまいります。本誌では、大学全体として採用している遠隔授業ツールをご紹介します。

### 【ZOOM】

ビデオ会議アプリケーションです。リアルタイム型遠隔授業で学生と教員が同時使用するほか、オンデマンド型遠隔授業の収録時に教員が使用しています。昨年採用した当初は報道等からセキュリティ面で不安の声もありましたが、ZOOM社の機能改善などを通じて公的機関でも採用は進み、現時点では授業上の特段の問題はないものと判断しています。

### 【ウェブクラス】

LMS (Learning Management System) とも呼ばれる学修管理システムです。オンデマンド型遠隔授業の視聴、課題提出、小テスト等に使用します。とくにオンデマンドでは、学生と教員の双方方向性が重要です。学生が事前学修や事後学修をLMSで行うと、**教員は学生の理解度を把握して授業動画に反映させる**ことができます。通信教育とは

異なり、LMSを通じて学生と教員が繋がる学修形態です。本学では昨年7月に導入しました。

### 【キャンパスプラン】

教務システムです。本学では以前から事務局内の成績管理に使用してきましたが、昨年からは学生自ら履修登録したり、科目ごとの学修目標や授業計画をまとめた「シラバス」もWebで閲覧できるようになりました。Webシラバスは、4月中旬以降はログインなしで参照できるようにになります(右図の例)。

なお、前期は9月中旬下旬頃、後期は3月中旬下旬頃になると**成績や取得単位数も本システムで参照**できます。

東京医療保健大学 東京医療保健大学 教務システム CampusPlan

シラバス参照

講義名	担当教員	講義区分	深層
講義科目名	前期	後期	10, 10
標準単位数	1	標準	
校地	医療保健学部看護学科(五反田)		
開講学科等・年次	医療保健学部看護学科 4年		
科目分類	医療のコミュニケーション教育		
区分	必修		

講義名(英文表記) InterProfessional Education

知能等について留意交換し、専門職としての役割を認識すること、今後で人間的な専門職としての役割を認識すること、

2. 教育目標  
 1. 職業倫理 職業生活の質の向上に向けて主体的な能力を形成できるように、倫理の学識と倫理、実務するための実践能力を養う。1) 倫理観を醸成すること(チームアプローチ)の意義を理解する。2) 自分・チームメンバーの自己マネジメントの工夫を認識する。3) 自身の専門職としての役割を明確にし、チームに貢献できる内容を提案できる。4) 今までの学業に知識及び経験を活用してチームに活用できる。

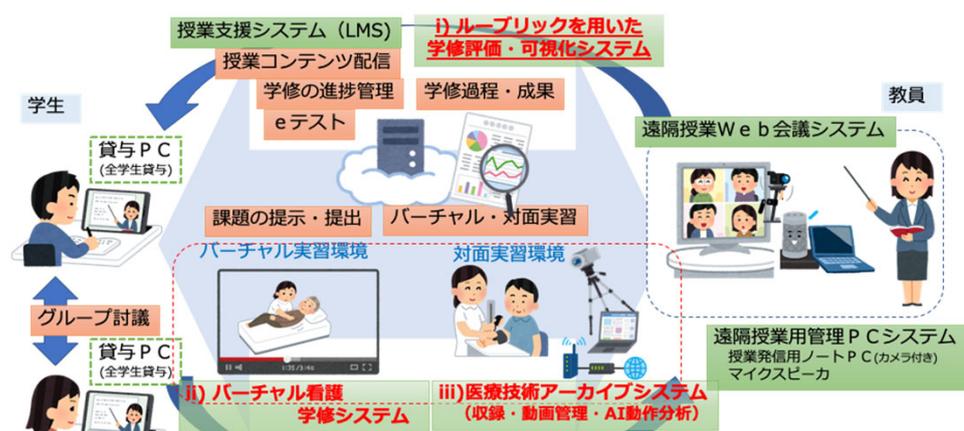
3. 授業計画  
 1. 授業の進め方  
 本学は「チーム」について、問題解決や課題解決に向けて看護学科・医療看護学科・医療情報学科の学生が、互に支援するグループワークを授業で実施する。  
 2. グループ・グループ  
 1) 前期前半(9月) 9月1日(月) 1課～12課  
 2) 前期後半(9月) 9月15日(水) 1課～12課  
 3) 後期前半(10月) 10月1日(月) 1課～12課  
 4) 後期後半(10月) 10月15日(水) 1課～12課  
 5. 履修計画  
 1) 履修計画書作成(9月) 9月1日(月) 1課～12課  
 2) 履修計画書提出(9月) 9月15日(水) 1課～12課  
 3) 履修計画書提出(10月) 10月1日(月) 1課～12課  
 4) 履修計画書提出(10月) 10月15日(水) 1課～12課  
 5. 履修計画書提出(10月) 10月15日(水) 1課～12課

授業計画表

## 本学の取組が文部科学省「Plus-DX」に採択

本学の取組が文部科学省が行う「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン(Plus-DX)」に採択されました。これはデジタル環境を大胆に取り入れオンラインと対面・実地を組み合わせるwithおよびpostコロナ時代の教育手法の具体化を図る事業です。本学は「学修過程・成果の可視化を目的とした医療系の学びにおけるDX推進」との取組名で応募し、全国174件の応募のうち採択44件の一つとして選ばれました。同事業の補助金を有効に活用し、学生の皆さんがより身近に学修成果を感じられるようなハイブリッド授業をこれまで以上に推進してまいります。

### 東京医療保健大学DX推進計画に基づく教育過程と成果の可視化



赤字箇所：文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」による整備計画

【代替実習ツール】  
 感染拡大状況により臨地実習が困難な場合に学内や自宅で代替的な演習を行う場合があります。これを本学では「代替実習」と呼んでいます。5つのキャンパスに分かれています。各看護学科で使用しているものとしては、医療・看護技術の動画を視聴するためのナージングチャンネル、患者に情報収集して介入するプロセスを再現できるバーチャルシミュレーター、そして

代替実習や演習に必要な機能に特化した学修用電子カルテシステムがあります。医療保健学部他学科でも、これらの代替実習ツールの一部は利用できます。これらの遠隔授業ツールは今後の感染拡大を受けて急速な発展を遂げています。本学においても、学修成果への波及効果を評価して、有効な資源投入となるよう全学的に見直しを行ってまいりますので、どうぞご期待ください。